

生徒の主体性を引き出す高校体育授業の実践

芝 嘉奎 (愛媛大学)

1. 研究の目的

本研究では、高校体育授業において生徒の主体性を引き出すことを目指し、授業における自己決定場面に着目した授業モデルを作成し、授業実践を通して授業モデルの効果と課題について検証することを目的とした。

2. 研究の方法

1)対象者：高等学校2年生 (77名)

2)調査時期：2022年10月12日～11月18日

3)授業実践：生徒の主体性を引き出すことに焦点をあて、①単元構想・学習過程の工夫、②教材・教具の工夫、③振り返り・評価の充実の3つの視点から授業モデルを作成し、実践した。

4)分析方法：高橋(1994)の「体育の診断的・総括的授業評価」や浅海(1999)の「主体性尺度」を参考に、4視点に分けて質問紙調査を実施した。単元前後での質問紙調査の比較、授業観察やワークシートの自由記述から、本実践の成果と課題を読み取ることにした。

3. 結果と考察

1)体育授業での目標・振り返り・内容に関して

目標を決めること、振り返りを行なうことの重要性が示された。授業内容の決定は、誰が行なうのが重要ではなく、どのような内容を行なうのかということの重要性が示唆された(表1)。

表1 目標・振り返り・内容に関する質問項目

体育授業での目標・振り返り・内容に関する質問項目	1項目4件法 n=77	平均 (標準偏差)		t値 (*:p<0.05)
		単元前	単元後	
・目標を決めて取り組んでいる		3.07 (0.84)	3.63 (0.55)	4.47*
・振り返りを行っている		2.81 (0.97)	3.59 (0.66)	5.65*
・内容は教師が決めるべきである		2.45 (0.94)	2.42 (0.81)	-0.19
・内容は生徒が決めるべきである		3.01 (0.86)	3.16 (0.72)	1.17

2)体育授業での主体的な取り組みに関して

授業の中で自己やチームで練習や作戦など考える場面を多くするなど生徒の自己決定を多く設定したことにより、授業内容の決定に主体性をもって取

り組めた生徒が多くなった(表2)。

表2 主体的な取り組みに関する質問項目

体育授業での主体的な取り組みに関する質問項目	1項目4件法 n=77	平均 (標準偏差)		t値 (*:p<0.05)
		単元前	単元後	
・授業内容の実施内容を主体性をもって取り組めた		3.32 (0.88)	3.66 (0.67)	2.59*

3)体育授業での学び方に関して

単元の「なか」から「おわり」にかけて生徒が自己決定していくことを重視した授業を構想し、進めていった結果、全ての平均値は向上したことから、チームや他者のことを考える力が身についたのではないかと推察した(表3)。

表3 学び方に関する質問項目

体育授業の学び方に関する質問項目	1項目4件法 n=77	平均 (標準偏差)		t値 (*:p<0.05)
		単元前	単元後	
・どうしたら運動がうまくできるかを考えている		3.20 (0.91)	3.53 (0.63)	2.63*
・うまい子や強いチームを見てうまくなるやり方を考える		3.31 (0.88)	3.61 (0.62)	2.43*

4)積極的な行動・自己表現・自己決定力に関して

課題に対して答えを与えるのではなく、生徒に思考させることの重要性が示唆された(表4)。

表4 積極的な行動・自己表現・自己決定力

積極的な行動・自己表現・自己決定力に関する質問項目	1項目4件法 n=77	平均 (標準偏差)		t値 (*:p<0.05)
		単元前	単元後	
・つまづいたとき、自分なりの考えで乗り越えようとする		3.24 (0.77)	3.57 (0.59)	2.69*

4. 結論

本研究では、生徒の主体性を引き出す授業モデルを作成し実践を行なった。その結果を検証したところ、3つの視点から主体性を引き出す効果が示唆された。体育授業において主体性を引き出すためには、授業者が主体的な活動が展開される場面を生徒の実態や授業内容に応じて作っていくことの必要性が確認できた。

5. 主な参考文献

1) 高橋健夫(1994) 体育の授業を創る 大修館書店 p234